

岡山市長期構想(仮称)の素案へのご意見募集(パブリックコメント)の結果について

1. 意見募集の概要

(1) 意見募集期間

平成27年12月1日(火曜日)～平成28年1月5日(火曜日)

(2) 閲覧場所

- ・総合計画課、行政資料室、各区役所、各支所・地域センター、各公民館、各ふれあいセンター
- ・本市ホームページ

(3) 意見提出方法

電子メール、ファクス、郵送、持参、本市ホームページ入力フォーム

(4) 意見提出先

岡山市政策局総合計画課

2. 意見募集の結果

(1) 意見提出者数 50

(2) 意見項目数 157

※同一意見提出者から複数項目にわたるご意見をいただいている場合があるため、意見提出者数と意見項目数は一致していません。

意見の概要と意見に対する市の考え方

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
全般（意見項目数：18）			
1	全般	長期構想のあちらこちらに「協働で取り組む」という言葉があることをとてうれしく思う。	都市づくりの目標や課題を市民と行政が共有し、ともに考え、ともに行動し、その実現に向けて協働で取り組んでいきたいと考えています。
2	全般	固定観念や、旧体質からの批判、大きな権力の圧力に屈しないでほしい。	岡山市のさらなる発展と市民満足度の向上を目指した都市づくりを市民と行政が一体となって取り組んでいきたいと考えています。
3	全般	H24策定の都市計画マスタープランとの関連性、整合性はどのようになっているのか。都市計画マスタープランと長期構想の違いが分かりにくい。また、長期構想の内容については賛同できるが、内容が広すぎて理解しづらいと感じる。	長期構想は市政全般にわたる長期的な都市づくりの基本目標や将来都市像を示すものであり、都市マスタープランは、その実現に向けて都市計画の観点から目標を明確にし、基本方針を定めるものです。
4	全般	「市民との協働」が強調されているにも関わらず、素案作成に関して何の打診もなかった。素案のみならず、他の条例や計画についても、作成自体を協働で進めるべきと思う。また民間からの素案受入があってもいいのでは。	都市づくりの目標や課題を市民と行政が共有し、協働で取り組んでいくことが重要と考えています。長期構想の策定にあたっては、ワークショップなど市民参加の取組を行ってきましたが、今後、中期計画の策定においても、ワークショップ等を通じて市民の皆様のご意見を頂きたいと考えております。
5	全般	岡山市が市民の意見を総合計画に反映させていく姿勢は良いと思うが、行政主導に偏ってしまわないよう、総合計画を市民と共に創れるような委員会を作る必要がある。	
6	全般	市民は参加することで納得する生き物である。市民が参加しているんだと「実感できる仕組み」をつくり、計画策定を進めてほしい。	
7	全般	各項目はその通りだと思うが、具体案がなさすぎる。	長期構想は市政全般にわたる長期的な都市づくりの基本目標や将来都市像を示しており、具体的な施策や数値目標等については、中期計画を策定する中で検討していきたいと考えています。
8	全般	この構想は個人には多岐に渡り過ぎていて成果が見えない。組織改革、大規模建設、企業誘致数等、随所に数値目標、さらに重点施策を3つまでにまとめて広報し、成果が見えるようにして、市民に達成感を与えないといけない。	
9	全般	素案の文意に異存は無いが、抽象的な理念ばかりである。市民生活に立ち塞がっている障害の現状に対して具体的な方策が求められている。	
10	全般	方針については、大変すばらしく、そのようになって欲しいと思うが、具体的な施策としてどうするのかということや、数値目標のようなものが見えないので、どのように実現させるのか分かりにくい。	
11	全般	構想の内容は、他の自治体が、他の誰もが考えてる事と思った。岡山の地形、人口、産業の現状から、どのようなゴールを目指すのかが見えない。	

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
12	全般	岡山市は、観光、自然、人、経済等の豊かな資源が揃いすぎているため、危機意識が薄くなっているように感じられる。山・川・海・水・土・樹木などが、いつまでも安全なままであるとは限らない。一瞬にして自然の恵みと郷土を失う危険性を否認しない時代の中に、私たちは生きていることを忘れてはならない。長期構想の第1段階は、現時点での各資源の現状把握(正負両面)。第2段階は、それらをいかに維持していくかの取り組み。その次に、将来都市像を考えるのが妥当ではないか。	長期構想では、時代の変化や要請、市民の課題認識、また岡山市固有の強みと特性を踏まえた上で、都市づくりの基本目標と将来都市像を定めるとともに、その実現に向けた都市づくりの基本方向を明らかにしています。
13	全般	全体を通して、時代の潮流と課題認識が、「人口減少問題と少子高齢化への対応」から書き出しているため、都市づくりの基本目標や将来都市像、基本方向においても、市民生活の分野を第一に書くべきであり、その方が、市民生活重視の方向が明らかとなり、市民意識にも合致する。	新たな総合計画において、人口減少問題と少子高齢化への対応は、最も大きな課題であると認識しており、人口が減少する中においても、固有の強みや特性を最大限にいかしながら、活力があふれ、市民が愛着と誇りを持ち、未来へ躍動する都市を実現するため、都市づくりの基本目標、3つの将来都市像、都市づくりの10の基本方向をお示しているところであり、それぞれにおける記載順については、その優先度を示しているものではありません。
14	全般	まちづくりについての考え方は、今まさに転換点にあるのではないかと思う。 再認識: 私たちは、過去の歴史の上に今があり、それを未来につなげていく存在であること 人優先: 住んでいる人が楽しい町、誇りを持てる町、人にやさしい町 独自性: 歴史を踏まえた他都市にはないものへの価値認識 推進力: 今の決断が100年後の岡山を作るという意識→今やらなければ、いつまでたっても変わらない 岡山の独自性を伸ばす施策、行政としての強い想いと推進を期待している。	時代の変化や要請、市民の課題意識を踏まえつつ、岡山市固有の強みや特性をいかしながら、市民が愛着と誇りを持ち、未来へ躍動する都市の実現に向け、市民と行政が一体となって取り組んでいきたいと考えています。
15	全般	真の豊かさとは、自然の恵み、人との交流、地域社会への参加である。	自然の恵み、人との交流、地域社会への参加は、人が豊かさを感じる大事な要素であると考えています。
16	全般	現行都市ビジョンと新しい長期構想を比較すると、環境先進都市、心の豊かさ、公平な自己実現の機会、新たな価値、人々がお互いに尊重し合う、人間らしい生活、ゆとり、市民力、情報公開…といった言葉が消えており、逆に「経済」が重視されている。現行都市ビジョンの考え方は、果たして引き継がれているのか、大いに疑問である。「輝く」や「活躍」など、時の政権が使う流行りの言葉に惑わされることなく、例えば「人権」という言葉を基本に据えるなど、基本的な価値観を率直にきちんと示す言葉こそ、長期構想においては使ってもらいたい。	都市づくりの基本目標では、市民誰もが、個性と能力を最大限に発揮し、一人ひとりが夢や希望を実現できるよう後押しする、人が輝く都市づくりという大きな方向性をお示しており、人権尊重をより明確に表現するため、基本方向6に以下の一文を追加します。「誰もが個人として等しく尊重され、個性と能力を発揮することのできる人権尊重のまちづくりを進めます。」
17	全般	人権が尊重される社会はすべてのベースであり、憲法にも保障されている。しかしながら、この長期構想には、ほとんど盛り込まれていないので、人権の視点、互いに尊重しあうという理念と言葉を入れてほしい。	
18	全般	新たな総合計画の策定における一番の課題は、人口動態の変化だと感じる。そのため、施策のプライオリティ付けやパッケージングを、人口動態を中心に考えてみるのも一つの手ではないか。基本方向の中で人口動態について分かりやすい形で言及し、人口動態の影響が大きくなる若年層に訴えかけるような「発信」の仕方についても工夫してみてもいい。	人口動態はまちづくりを考える上で最も基本的な指標の一つであると考えています。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
時代の潮流と課題認識（意見項目数：8）			
19	時代の潮流と課題認識	TPPの大筋合意、COP21パリ協定の採択など、我が国においてこれまで以上に食の安全や環境への負荷を軽減したエネルギー供給のあり方が求められる時代が予想され、長期構想にもそうした視点を盛り込むことが重要ではないかと考える。	食の安全の確保や環境負荷の軽減に配慮したまちづくりの視点については、将来都市像3や基本方向1の地産地消、基本方向9の低炭素型の都市の実現などに趣旨として含んでいます。
20	時代の潮流と課題認識	<グローバル化について> 多様性を認める社会、他者を認める社会 物まねはダメ、単一化するな 個、岡山の特性を伸ばす	グローバル化や広域化など、社会情勢が絶えず変化する時代にあっては、地域の独自性をいかしたまちづくりを進めることが必要と考えており、市民の課題意識の項で記載しているところです。
21	時代の潮流と課題認識	「時代の変化や要請」の「子育て・教育ニーズの拡大、若者や女性などの市民の力の発揮」は、その内容からみて「人口減少問題と少子高齢化への対応」の次に書くべき。	ここでは、人口減少やグローバル化の進展など、日本全体における変化や潮流を記載した上で、子育て・教育ニーズの拡大、若者や女性など市民の力の発揮といった、より身近な課題を記載しています。
22	時代の潮流と課題認識	「時代の変化や要請」の「地域経済の活性化、広域的役割の期待」では、「都心部、周辺部を通じ、公共交通の利便性を高めていくこと」の指摘は良いが、「広域的」とは、どの範囲をいっているのか。7頁では「中四国」や「圏域」、12頁では「瀬戸内地域」などが書いてあるだけに、明確にすべき。	ここでは、広域に及ぶ行政課題が顕在化しているという課題認識を示しており、広域の具体的な範囲は行政課題により異なるものと考えています。
23	時代の潮流と課題認識	「市民の課題意識」が「岡山らしさの発揮と発信」となっているのは問題である。それよりもむしろ(1)に書いている「安全・安心」などが課題となっているのであり、整理して書き直すべき。	近年、東日本大震災の発生や集中豪雨の頻発等により、安全・安心に対する市民の意識が非常に高くなっていると捉えていることから、時代の変化や要請として記載しています。 また、今年度を実施したワークショップなどの市民参加の結果からは、岡山市の特徴をつくり対外的に発信していくべき、地域への愛着や関心を高めるべきといった趣旨の意見が多数あったことから、市民の課題意識として「岡山らしさの発揮と発信」と記載しているところです。
24	時代の潮流と課題認識	「時代の変化や要請」では、安全・安心に対する市民意識の高まりとして、公共施設等の適切なマネジメントの必要性が記載されているが、「適切なマネジメント」という言葉は行政の長期構想中の文言として曖昧に過ぎるのではないか。	ここでは、高度経済成長期に集中的に整備された橋りょうや公共施設等の都市インフラが、今後急速に老朽化すると見込まれる中、将来にわたり市民の安全を確保するためには、計画的な予防保全が必要になる、という課題を記載しています。
25	時代の潮流と課題認識	「時代の変化や要請」の、「子育て・教育ニーズの拡大、若者や女性など市民の力の発揮」について、「情報化社会の中で生きていく子どもたち一人ひとりの学びや育ちを支援する」、「自ら課題を持ち、情報活用能力を育成する環境を整える」という視点も必要ではないか。	情報リテラシーは、現代社会を生きる上では重要であり、学校教育等においても引き続き取り組んでいく必要があると考えています。
26	時代の潮流と課題認識	今後の社会問題の発生において一番の課題となるのは少子化である。女性の社会進出や保育環境の整備、教育の充実など具体的な対策はもちろんのこと、環境・多文化共生などの分野の施策も少子化対策につなげることができるのでは。また、高齢化についても、今まで以上に施策を連携して行っていくことが必要である。	ご意見のとおり、少子化対策や高齢者施策はこれまで以上に総合的な取組を実施していく必要があると考えています。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
岡山市の強みと特性（意見項目数：10）			
27	岡山市の強みと特性	岡山市の強みと特性だけではなく、弱みや課題の分析も必要。あえて問題提起することで計画の説得力も増すと思う。参考資料としてだけでも岡山市のSWOT分析を実施・公開していただきたい。	長期構想を策定するプロセスの中で、社会経済情勢、市民ニーズ等の岡山市の置かれている現状について行政内部で分析した上で課題等を抽出し、「時代の潮流と課題認識」という形で記載しています。
28	岡山市の強みと特性	時代の潮流と課題認識をよく分析した上で、岡山市の強みと特性をつかんでいると思うが、弱みとその要因も分析し、対策の立案や歯止めを図ることも大切であり、それが重要なイノベーションの原動力になるのではないか。	
29	岡山市の強みと特性	「強み」だけでなく、干拓地が多く地盤が悪いなどの弱点があるだけに、「弱み」(問題点や課題)も整理して書くべき。	
30	岡山市の強みと特性	岡山市は中四国のクロスポイントでありながら、その強みをいかし切れていないという点は誰もが認識を共有している。何が違うのかよくわからないが、他の似たような規模の街、新潟や静岡、浜松、熊本などと比べると何だかこじんまりと、それでいてまとまりのない街と感じる。	全国から見た岡山市の認知度が必ずしも高いとは言えない状況の下、岡山市固有の自然、歴史・文化等の地域資源の価値を学び、岡山市を国内外に向けて積極的に発信していくことが重要であると考えています。
31	岡山市の強みと特性	「医療・介護資源」は、自然のところではなく、上の「機能集積」のところに書くべきである。また、「医療・介護需要の増加への対応が求められる」などと書いているが、介護施設などは十分ではないだけに、「豊富な医療・介護資源」の「豊富な」は書き換えるべき。そのため、4頁の2つ目の題は「災害が少なく温暖な気候、豊富な医療・介護資源」ではなく、内容からして「災害が比較的少なく温暖な気候、多様な自然環境」にすべき。	ここでは、岡山市が豊かで多様性あふれる自然環境を有していること、災害が少なく豊富な医療・介護資源の集積があり、安全・安心に暮らせるという強みと特性を同じ項目に記載しています。また、医療・介護資源については、現状、一定の蓄積があっても、進展する超高齢社会を見据えた際に、増え続ける需要への対応が求められるところではありますが、政令指定都市で岡山市はトップクラスの集積があることから、「豊富な医療・介護資源」としています。
32	岡山市の強みと特性	3頁では「自然災害の比較的少ない」と書いてあるため、4頁の「自然災害の少ない」は「自然災害の比較的少ない」と、「比較的」を入れるべき。	岡山市は、災害が少なく安全・安心な都市として全国的に認知されていることから、4頁では、全国的な認知にかかる表現として「災害が少ない」としています。
33	岡山市の強みと特性	4頁の自然環境のパラグラフに、児島半島と瀬戸内海のことを書いていないので、それを書き加えるべき。	ここでは、岡山市が持つ豊かで多様性溢れる自然環境を具体的に例示しながら強みとして表現しており、個々の自然資源すべてを記載しているわけではありません。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
34	岡山市の強みと特性	岡山市には全国に誇るべき図書館サービス(特に貸し出し冊数の多さ)の市立図書館があり、学校図書館に学校司書が配置されている。市民の読書・研究、学校での読書・調べ学習等が活発で、子どもへの豊かな育ちと学びへの支援が行われていることを盛り込んでもらいたい。「岡山市の強みと特性」と「都市づくりへの基本目標」の「都市の躍動感…」の3番目の○や「住みやすさ…」の文章の項に、「全国屈指の豊かな学びと育ちの取り組み」というような見出しで上記のような内容の文章を付け加えてほしい。	学校図書館や市立図書館は、豊かな学びに欠かせない施設であると認識しています。ESDに関して、岡山市の強みと特性では、公民館を拠点として地域が連携した「ESD岡山モデル」が、高い評価を得ていることについて記載しています。
35	岡山市の強みと特性	岡山市の強みと特性に、「岡山市では全国に先駆けて、1校に1名、学校司書を配置しています。子どもや教職員への的確な資料提供を通して学習活動、読書活動を支え、生涯学習人・生涯読書人の育成に努めています。」という内容も入れてはどうか。岡山市の学校司書配置は、岡山市の強みと特性だと思う。	
36	岡山市の強みと特性	先進的な取組を推奨し、岡山市の特徴にしていくべき。岡山市の公民館はESDの取組をはじめ素晴らしいものであり、学校図書館は全国から視察がくるほど注目され、歴史も古い。この2つは岡山市の特徴としてぜひ押し出して欲しい。	

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
都市づくりの基本目標（意見項目数：13）			
37	都市づくりの基本目標	岡山は他都市よりも災害が少なく住みやすいが、例えば日陰や雨宿りが出来る屋根・アーケードが少ないなど、市民に優しくない。お金はかかるが、市民目線で検討し直すべきことが数多くある。他都市の人が岡山市に来て、素晴らしい街だ、今度はもっと大勢で来たい、住みたい、と思ってもらえるような街づくりを目指してさらなる議論をしていくべき。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
38	都市づくりの基本目標	市民と行政がともに変えていく「協働」の取り組みに期待している。多くの市民が納得しその方向に進めていけるよう願っている。	都市づくりの目標や課題を市民と行政が共有し、ともに考え、ともに行動し、その実現に向けて協働で取り組んでいきたいと考えています。
39	都市づくりの基本目標	「都市の躍動感を創出する」とあるが、躍動感とは、これ以上まちを開発して、消費社会化を進めて行くことや、コンクリート化を進めていくことではなく、歴史や遺産、自然環境や人的資源を大切に、あるものをいかして、再利用しながら、長いスパンでみてゆとりを持って社会的弱者と言われる人たちも安心して生活していける市民参加型社会のしくみをつくることであり、それがこれからの持続可能な都市の進むべき方向性ではないか。	都市づくりの基本目標では、水と緑に恵まれた美しく快適な環境を大切に、都市の躍動感を創出しつつ、これまで培ってきた「住みやすさ」に磨きをかけ、市民誰もが岡山に住み続けることに誇りを持つ都市づくりを進めることとしています。 また、将来都市像2では、「ESDの理念に基づき、次代を担う人材を育成し、多様な担い手がより良い地域をつくり上げる市民主体の都市」や、「市民一人ひとりが地球環境や将来世代に配慮した行動を実践することで、環境負荷の少ない持続可能な社会づくり」を進めることを記載しています。
40	都市づくりの基本目標	「未来へ躍動する桃太郎のまち岡山」の意味するところが分からない。成長一辺倒の政策が行き詰っている現在、「躍動」が大量消費を前提とした経済なら違うのではないか。目指すのは、「成熟」「安定」であるべきで、「桃太郎のまち」では、実質何を指すのか不明。目標にするなら、例えば「くらし生き生き だれもが主人公のまち岡山」など、市民一人ひとりが自分の生活に引きつけて考えられるものにしてほしい。	
41	都市づくりの基本目標	日本を含む不安定な国際情勢からみても、今後、困難な状況がますます増えることを考えれば、「未来へ躍動する桃太郎のまち岡山」というキャッチフレーズは、あまりに現実離れた、中身の無い絵空事のようにしか感じない。「躍動する」「桃太郎」が何を表しているのか、今のままではよくわからないので、これからの時代にふさわしい具体的なストーリーを多くの人で議論し創っていく必要がある。	新たな総合計画においては、人口減少問題と少子高齢化への対応が最も大きな課題であると捉え、人口が減少する中においても、岡山市固有の強みや特性を最大限にいかしながら、活力があふれ、市民が愛着と誇りを持ち、未来へ躍動する都市の実現をめざすという方向性のもと、全国的にも知名度が高い「桃太郎」を新たな都市づくりの象徴とし、未来への躍動感や力強さ、健康などのイメージを重ね合わせ、都市づくりの基本目標を「未来へ躍動する 桃太郎のまち岡山」としているところです。
42	都市づくりの基本目標	これからの岡山市を創造していくために様々な課題を網羅してはいるが、「背骨」となるような1本貫いた確固たる思いが伝わってこない。「活力」、「躍動(感)」といった言葉が躍っているが、わかりにくい。「元気」と一言で言ったほうが良いのでは。市民とともに考え、行動していくのなら「子どもにもわかる」くらいの平易な言葉で表すべきであり、1人1人がお互いを大切にし、ここでより良く生きていこうと思える岡山市を創るために、一緒に考えよう、という姿勢を前面に出し、青年以上の年齢層でなく子どもからでも意見を聴くなど、市民が主役だという意識を高める工夫を凝らすべき。	また、都市づくりの基本目標の実現に向けては、目標や課題を市民と行政が共有し、具体的な役割分担を明確にししながら、ともに考え、ともに行動し、協働してまちづくりを進めていく必要があると考えています。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
43	都市づくりの基本目標	市内大学設置数、利便性の良さ、温暖な気候、天災の少なさ等々、岡山市の特性と岡山市の私立高校の特徴ある教育は、今後更なる発展の可能性を含めている。統計等からは、岡山市内私立高校への関心度は高く、良い教育成果も出ているため、全国的に見ても低い私立高校の耐震補強への補助拡大も含め検討することで、全国の子育て家庭に対して『教育都市おかやま』をアピールすることができる。岡山市の長期構想は、『教育都市おかやま』とすべきではないか。	岡山市が中四国地方の学術・研究の拠点都市となっていることは岡山市の強みであると認識しており、これらの岡山市固有の強みや特性を最大限にいかしながら、活力があふれ、市民が愛着と誇りを持ち、未来へ躍動する都市の実現を目指すこととし、都市づくりの基本目標を「未来へ躍動する 桃太郎のまち岡山」としています。
44	都市づくりの基本目標	都市の躍動感を創出すると「住みやすさ」に磨きがかかるのではなく、「住みやすさ」に磨きをかけると、都市の躍動感は徐々に醸成される。そのためには「市民と行政がともに変えていく」という意識をすり合わせなければならない。よって、項目の順序は、1.「住みやすさ」に磨きをかける、2. 市民と行政がともに変えていく、3. 都市の躍動感を創出する。になると考える。それに付随し、将来都市像1は、「誰もがあこがれる充実の『子育て・教育都市』」が最優先となり、将来都市像2は、「中四国をリードし、活力と創造性あふれる『経済・交流都市』」として順序を逆転させるべき。	水と緑に恵まれた美しく快適な環境を大切に、都市の躍動感を創出しつつ、これまで培ってきた「住みやすさ」に磨きをかけていくこと、そして、都市づくりの目標や課題を市民と行政が共有し、ともに考え、ともに行動し、協働で取り組むことがこれからの都市づくりを進める上で、何よりも重要であると考えています。なお、3つの将来都市像の順序については、その優先度を示しているものではありません。
45	都市づくりの基本目標	都市ビジョンにある「庭園都市」という言葉が薄れていることはもったいなく感じる。	水と緑に象徴される都市ビジョンの理念を引き継ぎながら、住みやすさに一層の磨きをかけ、未来志向の躍動感のあるまちづくりを進めていきたいと考えています。また、将来都市像3では、自然環境と調和した豊かな暮らしを将来世代に引き継ぐ都市をめざすことを掲げています。
46	都市づくりの基本目標	①「時代の潮流と課題認識」は一面的であり、「住民の福祉の増進を基本とする」地方自治の原点に立っての、市民生活の実態の把握と分析がないことが問題である。 ②市民からの要求や市民意識調査結果からは「福祉の増進」の重要性が明確になっているが、それが後回しにされ、「中四国の総合福祉の拠点都市」という都市ビジョンに掲げた目標が、わずか7年で「中四国をリードする経済・交流都市」に替えられている。 ③岡山市の特徴をつくり、都市ブランド力を高め、対外的に発信していくことや、地域への愛着や関心を高めるなどは、行政側が「市民が意識すべき課題」として考えていることで、「市民の課題意識」とは別物である。よって、「第6次岡山市総合計画」の第1に掲げるべき目標は、「医療・福祉・教育が充実した岡山市」である。また、「医療・福祉・教育が充実した岡山市」を実現するために、予算の比重を高めて、 ○保留児解消、子ども医療費の無料化拡大など子ども・子育て支援策を拡充する。 ○高齢者と障害者が不安なく暮らせるよう医療・住居・公共交通を見直す。 ○保健・医療・介護・生活保護など社会保障・福祉を充実する。 ここから始めることを明確にすることを求める。	長期構想の素案は、市民意識調査やワークショップ等の結果も踏まえて、基本政策審議会での審議も経てお示しているところです。ワークショップ等の結果からは、住みやすさへの一定の評価がある一方で、岡山市の特徴をつくり、都市ブランド力を高めること、地域への愛着や関心を高め、対外的に発信していくこと等が課題として挙げられました。このため、長期構想では、都市ビジョンの理念を引き継ぎながら、住みやすさや安全・安心といった岡山市が持つ魅力に一層の磨きをかけるとともに、変化を実感したいという市民のまちづくりへの期待の高まりを踏まえ、国内外を視野に入れた未来志向の躍動感のあるまちづくりを進め、まちの変化を創出し、まちの活力、市民の愛着と誇りを高めることを目標にしています。また、具体的なお意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
47	都市づくりの基本目標	<p>市民が期待することの一つに、「安全安心な街づくり」が挙げられる。そこで、「基本的な事柄をきちんと実現する都市」を掲げてみてはどうか。誰にもわかりやすく、誰もが憧れる都市というのは、実はそういう都市ではないか。例えば、子どもや高齢者、子育て中の方が安心して外出できる街、自動車や自転車が道路交通法を守る街、歩道や自転車道が整備されている街、街灯を増やすなどして夜も歩きやすい街を目指す。多額の費用を使わずに長期構想の目的である人口減少問題を解決する糸口はたくさんある。</p>	<p>将来都市像3では、豊富な医療・介護資源をいかして住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる都市、防災、減災、防犯などに万全を期し、市民の暮らしの安全・安心が確保された都市、自然と調和した豊かな暮らしを将来世代に引き継ぐ都市をめざすことをお示しています。</p>
48	都市づくりの基本目標	<p>「都市の躍動感を創出する」「住みやすさに磨きをかける」「市民と行政がともに変えていく」に違和感を感じる。都市づくりの基本目標の背景となっている「時代の潮流と課題認識」には、本来なら市民意識調査の分析などに基づく岡山市民の実態・課題が前面に出るべきだが、それらが無視されるか後景に追いやられているため、都市づくりの基本目標を下記の通りに変更すべき。</p> <p>(1) 住民が主人公の立場を貫く 行政の本来の役割は、「医療・福祉・教育優先の市政」と「安心して住み続けられる岡山市」を実現することだと思う。そのために、住民運動が実現を求める切実な要求、多様な組織による対市要求、市民意識調査に反映している市民要求などを政策化して、市民が主人公の立場でその実現をめざすことだと思う。</p> <p>(2) 憲法を尊重し、住民自治と民主的な行財政、市民協働を発展させる 行政、財政の民主的改革をすすめ、NPOの活動も活かして住民自治を発展させることが必要だと思う。政治家をはじめ公務員など「権力」を行使する者が、戦争放棄と基本的人権の実現を義務付けている国民主権の日本国憲法を遵守し、この憲法を生かして平和と人権をまもる岡山市政を発展させることが必要。</p> <p>(3) 国、県に対して自主性を貫く 現在の日本の政治は、基本的人権より大企業の利益優先の「国益」を重視している。それだけに、岡山市政が国や県の悪政に追随するのではなく、憲法を生かす自主性を貫いて市民の利益を守ることが大切になる。</p>	<p>都市づくりの基本目標は、市民意識調査やワークショップ等の結果も踏まえて、基本政策審議会での審議も経てお示しているところです。また、市民意識調査の結果からは、全世代を通じた健康・医療・福祉に対するニーズの高さや、防災対策の重要性、若い世代を中心とした教育・子育てニーズの高さなどが読み取れることを踏まえ、時代の潮流と課題認識や、3つの将来都市像の設定等に反映しています。</p>
49	都市づくりの基本目標	<p>「桃太郎のまち岡山」を具体化するために、桃太郎大通り、西川緑道公園、商店街において観賞用の白桃・マスクットの鉢植イベントを実施することを提案する。</p>	<p>ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。</p>

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
将来都市像（意見項目数：16）			
50	将来都市像 1	【新たな文化を創造・発信する】とあるが、具体的な構想が謳われていない。長期構想に、岡山市の文化活動の活性化、市民の文化の向上に資するため、市民の憩いの場となり、バリアフリーで市民参加型の岡山市立美術館の設置を謳っていただきたい。	将来都市像1では、新たな文化を創造・発信するという大きな方向性を、基本方向3では、岡山市固有の歴史・文化資産をいかした新たな文化を創造し、国内外に発信する旨を記載しているところであり、具体的な施策については、中期計画でお示しすることとしています。
51	将来都市像 1	四国や広島においては、岡山市が中四国をリードしているとは考えていないだけに、「中四国をリード」は削除すべきである。また「圏域全体の発展を力強くリードする拠点都市」の「圏域」とはどこかも明確にすべき。	岡山市は、政令指定都市として、また、中四国のクロスポイントに位置する拠点都市として、周辺市町、岡山大都市圏のみならず、中四国圏域の活性化にも貢献できるような都市をめざしていきたいと考えています。
52	将来都市像 1	「コンパクト化」について、周辺地域においても生活が成り立つライフエリアの確保と、都市景観や日照権の問題、地震の長周期振動などの問題のある高層ビルの建設を規制することなどが必要であるため、それらを書くべき。	将来都市像1では、周辺地域が、生活機能を維持しながら、多様で豊かな地域資源をいかし個性を発揮する、多様性のある都市、将来都市像3では、大規模化する自然災害等への備えに万全を期し、市民生活の安全・安心が確保された都市をめざすことを記載しています。具体的な取組に関するご意見については、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
53	将来都市像 1	産業育成、農業振興等を図るために、大学研究機関、専門学校、商工業系高校、さまざまな経済団体、行政が連携する仕組みが必要になってくるのではないかと。	産業育成、農業振興等を図るためには、産学官連携や農商工連携などさまざまな連携が必要と考えています。
54	将来都市像 1	文化をまちづくりに活用し、市民一人ひとりが学び親しむには、公共図書館や公民館、学校図書館の専門性や働きが欠かせないため、その充実を盛り込んでほしい。	市立図書館や公民館、学校図書館は、豊かな学びに欠かせない施設であると考えており、将来都市像1では、岡山市固有の歴史・伝統・文化をまちづくりに活用するとともに、市民一人ひとりが学び親しむことを記載しているところです。
55	将来都市像 2	子育て環境を充実させるため、また、未来を拓く人材を育てるためには、奨励金制度なども含めて、3世代同居を推進していくべき。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
56	将来都市像 2	時代の潮流と課題認識で、問題行動や不登校の問題を書いているだけに、将来都市像2や基本方向5の教育については、教育条件の整備などを具体的に書くべき。	将来都市像2や基本方向5に記載している、未来を拓く人材を育むまちづくりを進めるため、不登校や問題行動の未然防止と早期解決に取り組むことは重要であると考えており、具体的な施策については、中期計画を策定する中で検討していきたいと考えています。
57	将来都市像 2	未来を拓く人材を育てるの項について、保育や授業の充実も入れるべきであり、「…健やかに育つよう、保育や授業や学校図書館での学びを一層充実させ、就学前から…」というふうにつけ加えてほしい。	子どもたちの健やかな育ちのためには、保育や授業、学校図書館での学びが果たす役割は重要であると考えています。
58	将来都市像 2	子育て環境の充実で、まず希望者全員が入れる保育園を整備してほしい。市立保育園の民営化は、保育士の身分を不安定にし、少しでも待遇のいい職場を転々とする保育士を生み、0～5才という情操が育つ時期の子どもによくはないと思う。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
59	将来都市像2	放課後教室や居場所づくりに市が責任を持つ体制を作ってほしい。居場所づくりはボランティアだけでは継続できない。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
60	将来都市像2	未来を拓く人材を育てるとあるが、人材という捉え方ではなく、一人ひとりが一人の人間として尊重される岡山市であってほしい。	都市づくりの基本目標では、「市民誰もが、個性と能力を最大限に発揮し、一人ひとりが夢や希望を実現できるよう後押しする、人が輝く都市づくり」をめざすこととしており、一人ひとりが個人として尊重されるという趣旨をより明確に表現するため、基本方向6に以下の一文を追加します。 「誰もが個人として等しく尊重され、個性と能力を発揮することのできる人権尊重のまちづくりを進めます。」
61	将来都市像2	「子どもが将来に夢と希望を持って・・・」には、中学校区の地域協働や学校図書館の働きが欠かせないため、その充実を盛り込んでほしい。	将来都市像2では、家庭、学校、地域が協働して教育力を高めることを記載しており、「地域協働学校」をはじめとした社会全体での教育の実現を目指す趣旨を含んでいます。また、学校図書館は、豊かな学びのための欠かせない施設であると考えています。
62	将来都市像2	未来を拓く人材を育てることについて、就学前から中学校までの学びの連続性を大切にするとあるが、中学校で完結するというイメージの表現はどうかと思う。県政との役割分担もあるだろうが、「高校へつなぐ、連携する」という視点が盛り込まれると良い。	将来都市像2では、他者や社会とのつながりを重視し、自ら考え、学び、行動する、未来を拓く人材が育つ都市をめざすことを掲げており、就学前から中学校までの学びの連続性を大切にするとともに、一人ひとりの生涯を通じた豊かな学びを支援することを含めて記載しているところです。
63	将来都市像2	東日本大震災以降、日本人の考え方が変化してきており、経済発展や利便性ばかり求めてきた日本から、「本当の幸せ」や「安全なエネルギーや食の確保」について真剣に考え、そして行動する人が若者を中心に増えている。そうした若者を育てる岡山市であって欲しいと願う。	将来都市像2では、他者や社会とのつながりを重視して、自ら考え、学び、行動する、未来を拓く人材が育つ都市、ESDの理念に基づき、次代を担う人材を育成し、多様な担い手が、より良い地域をつくり上げる市民主体の都市をめざすことを記載しています。
64	将来都市像3	健康、安全、自然環境が項目としてあがっているが、日本全国に誇る都市づくりのためには、グローバルな視点・枠組みを意識し、都市像や方針・方向性を整理しておくべきではないか。	「時代の潮流と課題認識」の中で、様々な社会経済分野でのグローバル化が大きく進展していることを記載しています。
65	将来都市像3	生物多様性の保全(COP)、2015年9月に決議された国連「持続可能な開発目標」(SDGs)、ESDなどをふまえ、市の取組と国際的な枠組みとの関連を示すことで、他都市との差別化を図ることにつながるのではないか。	「岡山市の強みと特性」の中で、岡山市がESD推進のためのユネスコのキーパートナーに認定されていることを明記しており、こうした認識を踏まえて将来都市像3では、市民一人ひとりが地球環境や将来世代に配慮した行動を実践するというESDの視点や、多様な自然環境との調和など生物多様性の保全の視点を盛り込んで記載しているところです。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
基本方向（意見項目数：86）			
66	基本方向1	岡山という地域社会において、中小企業は産業の主役と言える存在であり、また、教育についても一定の役割を果たしていることを踏まえ、構想の中に中小企業についての記述を増やしていただきたい。	基本方向1では、地域経済を支える中小企業の育成・強化を図る、という大きな方向性を示しており、具体的な施策については中期計画を策定する中で検討していきたいと考えています。
67	基本方向1	中期計画の領域かもしれないが、教育の場で中小企業の真の姿を子どもたちに伝える、交通の要衝という地の利を活かし近県からの就職者を増やすといった内容を構想に盛り込むべき。	
68	基本方向1	中小企業の自助努力とともに、地域全体の共助という意味で、たとえば人材確保など中小企業の質的向上を支援する内容を記述するべき。	市では、学卒者やUIターン希望者と地元企業とのマッチング等により企業の人材確保を支援しているところであり、具体的な施策については、中期計画を策定する中で検討していきたいと考えています。
69	基本方向1	コミュニティの維持発展のために、中小企業が果たす役割を広く市民に周知していただきたい。特に若者とその親世代、教育関係者などに、地元の中小企業で働く意義について正しく認識していただくことは非常に重要な課題である。また、岡山市らしい理念型の「中小企業振興基本条例」の策定を、開かれた場で意見交換しながら進めていただきたい。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
70	基本方向1	教育に力を入れて優秀な人材を育成しても、就職で市外・県外に出て行ってしまっただけでは何にもならない。雇用の受け皿として、優れた財務体質の中小企業、ニッチな分野で独自のノウハウや技術を有する中小企業への支援策も検討していただきたい。そういう企業で働くことが自分の成長につながり、誰にでも代替可能な組織の歯車になるのではなく、創意工夫と主体性を発揮しながらやりがいと誇りをもって働くことができるということを、若者と親、教育関係者に知っていただきたい。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
71	基本方向1	地域の雇用と教育において、中小企業が地域にどれだけ貢献しているのか、経営者がどんな思いで仕事をしているのかを、実際に若者と経営者がプライベートで会って共有していけることが非常に重要であり、そういった活動を通して中小企業への雇用が増えていくのではないかと。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
72	基本方向1	人口減少や人工知能の発達で必要なくなる職業が出てくることを考えると、今後は資格や能力よりも一人ひとりの価値観や個性が発揮される仕組みが必要だと考える。そのためには、全ての若者に価値があると信じて関われる大人が増えていくことが重要であり、中小企業の経営者や価値観を尊重できる大人をメンターとして承認し、積極的に若者とプライベートで交流できる場をつくっていくべき。	都市づくりの基本目標では、市民誰もが、個性と能力を最大限に発揮できる、人が輝く都市づくりをめざすことを記載しています。ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
73	基本方向1	失敗してもやる気と能力さえあれば何度でも再チャレンジできる仕組みの構築や、クラウドファンディング等の取組により市外・県外の岡山市民が故郷を応援できる仕組みの導入など、起業支援についても言及していただきたい。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。また、具体的な施策については、中期計画でお示しすることとしています。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
74	基本方向1	地域経済の活性化は必要不可欠だが、先の見通しが不安定な中、経済自体のパイの拡大は難しくなっていく。また、女性や高齢者の活躍が期待される一方、少子化により労働力の確保が困難になっていくため、地場産業や成長分野であるヘルスケア産業の育成を進めながら、絶対的に労働力を必要とする医療・介護分野に適切に労働力を供給できるような、産業構造の転換・教育にも力を入れていくべき。	岡山市の強みである医療・介護等の都市機能の集積をいかし、産学官などの幅広い交流・連携により、ヘルスケア関連産業をはじめとした付加価値の高い新産業の創出・育成を図っていきたいと考えています。
75	基本方向1	グローバル化も重要だが、一方で域内での経済循環の推進にも配慮すべき。	地域振興を進める上で、地産地消など域内での経済循環の促進は重要な視点であると考えています。
76	基本方向1	グローバル化が加速する中、県外や海外の資本を排除するのではなく、地域の企業がその地域でこそ持つ優位性を評価し、地域発展のために活用すべきであり、域内での経済循環の推進を構想に盛り込むべき。	
77	基本方向1	域内にお金が残るよう、市民がメイドイン岡山を買い地域の生産者を育てることへの啓蒙活動など、市民県民の意識改革を行い、本当の意味の地産地消を目指していくべき。極端に言えば、県内鎖国でも経済が成り立つような視点が重要ではないかと考える。	
78	基本方向1	持続可能な社会をめざす世界の流れに沿ったまちづくり、地域経済を明確にすべき。 持続可能な社会、地球をめざすことが世界の趨勢となっており、岡山市のESDの取り組みが世界から評価されたことは意義がある。しかし、市政で大型開発に投資される財政の大半が、首都に本社がある大企業に吸い上げられ、地域経済にはわずかしか循環せず、開発型の公共事業予算の増加は、福祉、教育予算の拡充の障害となる。まず、総合計画の立案に当たっては、経済連関表などを公開して、それぞれの地域や産業、業種がそれぞれの条件をいかす地産地消、内発型の地域循環経済の発展で、持続可能な社会、経済の方向性を探求し、その実現をめざすべき。	
79	基本方向1	グローバル化により、不安定でありながらも海外からの影響が大きくなることは間違いない。地場の観光産業・商店街、瀬戸内海で繋がる自治体などと連携しながら、インバウンドを拡大していく視点を取り入れてはどうか。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
80	基本方向1	中心市街地の賑わいを創出するため、表町商店街を再開発して、1F／商店街、2F／駐車場、3F以上／高層マンション、に建て替え、表町地区の人口増加を図る。入居者選定については、特に県外からの若年層を優遇するべき。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
81	基本方向1	少し高くてもいいモノ、そこに行かなければ手に入らないモノなど、付加価値の高い良質な商品・サービスを発掘し情報発信するとともに、それらを絶妙なロケーションで提供するなどの演出、観光とのパッケージ化、物語の発掘にも力を入れていただきたい。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
82	基本方向1	岡山市は自然災害が少なく安全な場所であるが、知名度は低いのが現状である。晴れの国として有名、三大名園の後楽園を有し岡山城もある。こんな良い都市をもっと観光客に来ていただけるようにするためには、岡山駅から後楽園に直接行くことができる交通機関をつくる必要がある。	基本方向1では、岡山城・岡山後楽園を中心とする歴史・文化ゾーン、表町エリア、岡山駅周辺エリアなどそれぞれの特性をいかすとともに、回遊性を高めるなど、魅力と賑わいのある中心市街地の創出を図ることを記載しており、ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
83	基本方向1	岡山駅から城下までの桃太郎大通りを楽しい通りにしてたくさんの人でにぎわう場所にしたい。文化ゾーンとしての一角を充実させ、多くの人に来て頂けるように、岡山駅から城下、後楽園までを活気あるゾーンにしてほしい。	
84	基本方向1	岡山駅東口周辺だけで所用が完結してしまうのではなく、より広域に人が分散し循環するような戦略、回遊性の高い交通網の整備、東西の動線の充実が重要ではないか。	
85	基本方向1	岡山にはこれといった宿泊目的及び土産物販売施設が乏しいので改善すべき。 対策として下記を提案する。 ①後楽園・岡山城周辺に、ホテル・土産物販売・観光拠点等を建設・運営する企業を募集する。 ②土産物・食事は岡山県全域にかぎらず周辺瀬戸内ものを網羅し、通年営業する。 ③ホテルを拠点とした県内各地へのツアーを企画し、県外からのツアーの中継点になれるよう営業する。 ④吉備路自転車道及び吉備高原自転車道を拡充し、ホテルからの自転車ツアーにより吉備路の観光資源を活用する。	
86	基本方向1	「中小企業の育成・強化」を書いているのは良いが、農業については書いてあるものの、漁業と林業については書いていないので、多面的機能も含めて加筆すべき。	長期構想では、第一次産業のうち、岡山市でウエイトの高い農業に焦点を当てて記載しています。また、農業が持つ多面的機能は重要と考えており、具体的な施策については、中期計画の中でお示しすることとしています。
87	基本方向1	「意欲ある農業者による多様な生産と拡大を進める」と書いているが、中山間地などにおいて農地の荒廃や環境の悪化が進んでいるため、これらを防ぐためにも、「多様な生産」は推進すべきであるが、兼業農家を含めて大多数の農業者が行っている農業を守る必要があるため、それを書くべき。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。また、具体的な施策については、中期計画でお示しすることとしております。
88	基本方向1	高校の農業、家庭に関する学科には「食」や「生活」に関連したたくさんの学びがあるが、そうした学びを生かす職業があまりにも少ない。農業や食品製造が職業として選択できる基盤を整備してほしい。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
89	基本方向1	TPPIにより海外農産物との競合が予測され、市独自で地域ごとの農産物のブランド化、農業基盤の集積化、法人組織化などに取り組んでいくべき。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
90	基本方向2	中心部の住宅街の多くが商用地になっているが、商用地にマンションが建設されるのは目的から見て矛盾している。都市計画の見直しにより、暮らしと産業が自然に調和しながら共存できる「水と緑の庭園都市」を目指してほしい。また、条例などで建物の高さ等の規制もお願いしたい。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
91	基本方向2	中環状線と外環状線の全線開通に合わせて公共施設や商業施設を外環状線周囲に建設・移設することで、市中心部の交通渋滞や駐車場不足解消に大きな効果が期待でき、外環状線周囲の地価上昇や県外からの支店、営業所などの出先施設の誘致を行ない易くなるため、土地の農地転用許可を緩和し、不動産を活かす行政が必要。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
92	基本方向2	岡山市のこれまでの発展がダメだったわけではないが、市民の地元を盛り上げようとする気持ちが高かった他都市は、躍動的な都市景観を備えた街づくりを行って現在に至り、岡山は取り残されたような感じがする。JRの利便性を高め、車を使わずに市中心部への流れが出来るようにする、岡山駅周辺を工夫して表町とのアクセスを便利にするため路面電車を駅に乗り入れさせたりバスの便数をもう少し増やすなど、ほんのちょっとした事で結果は良い方に変わると思う。	基本方向1では、岡山城・後樂園を核とする歴史・文化ゾーン、表町エリア、岡山駅周辺エリアなど、それぞれの特性をいかすとともに、回遊性を高める等、魅力と賑わいのある中心市街地の創出を図ること、基本方向2では、公共交通を中心にした交通ネットワークの構築を図ることを記載しており、具体的な取組に関するご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
93	基本方向2	公共交通機関の充実について、路面電車の駅前広場への乗り入れなどではなく、南区など路線バスが廃止になっているの交通手段が無い地域をどうするかをもっと考えていくべき。	基本方向2では、誰もが安全・快適・円滑に移動できるように、公共交通を中心に、徒歩、自転車、自動車地域特性に応じて最適に組み合わせた交通ネットワークを構築することを記載しており、具体的な施策については中期計画を策定する中で検討していきたいと考えています。
94	基本方向2	採算が取れない赤字の路線バスなどは市営バスとして運行を続けるべき。特に、もっと広域に循環できる路線バスを運行していくべき。	
95	基本方向2	乗合タクシーや障害者が安心して乗れるノンステップバスの充実など、もっと交通弱者の立場に立って公共交通機関を充実させるべき。	
96	基本方向2	路面電車の役割は昭和50年代で終わったと思っている。平日の午後はほとんど利用されておらず、空の電車を走らせて全くエコでない。また、電停は道路の真ん中にあり、高齢者には大変危険である。路面電車は廃止して「めぐりん」などでバスの利便性を向上すべき。	
97	基本方向2	年をとっても自分の家で過ごし、買い物等に出かけたいと思うが、タクシー料金も上がり、先行の事を思うと不安でならない。交通が不便な地域でも安心して暮らせる安くて便利な乗り物のサービス(家からスーパー、銀行、病院、公民館、美術館、後樂園、山陽新聞カルチャーなどの往復)があればと思う。	
98	基本方向2	低料金で利用できる寄り合いバスがあればと思う。そうなれば、高齢者の運転免許証の自主返納も進むのではないか。	
99	基本方向2	岡山は観光ルートが限られており、車でないと点と点を結ぶことが難しい。周遊しづらさを解消するためにも、時間帯によって公共交通がつながるよう各社で調整するなどしてほしい。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
100	基本方向2	コンパクトシティと、公共交通の推進について積極的に進めていただきたい。	無秩序な開発を抑制するとともに、都市計画と交通政策を連携し、コンパクトでネットワーク化されたまちづくりを進めていきたいと考えています。
101	基本方向2	コンパクトでネットワーク化されたまちづくりを実現するためには、交通網の充実に加えて、土地利用の規制やルール作りが欠かせない。農地転用等の規制・要件緩和に一定の歯止めをかけ、市街地の無秩序なスプロール化の抑止を行政が主体となって進める必要がある。	
102	基本方向2	コンパクトシティばかりが強調されて郊外地域は置き去りにされている感がうかがえる。もっと岡山市全体の市民が安心して暮らせる施策が必要。	「コンパクトでネットワーク化されたまちづくり」とは、都心、地域の拠点に都市機能を集積しながら、都心拠点と周辺地域の各拠点が相互に公共交通を中心とする交通体系で結ばれた状態をめざしているもので、人口減少や高齢化が進む中、市民生活の質と都市の活力の向上を図るために欠かせないまちづくりのコンセプトであると考えています。 より明確に、わかりやすい表現となるよう、将来都市像1の記述を、「周辺地域の拠点機能を充実し、これと高次の都市機能が集積した都心部とが利便性の高い公共交通等で相互に結ばれた、コンパクトでネットワーク化された都市づくりを進めるとともに、それぞれの周辺地域が多様で豊かな地域資源を十分にいかして活性化と生活機能の維持を図りつつ、個性を発揮し、市域全体が快適で活力あふれる都市をめざす」に修正します。
103	基本方向2	山村部においては、限界集落や耕作放棄地などの問題が一層深刻化しつつある。農地の集約化も必要ではあるが、集約できなかった土地については、地域と連携して自然な山林に戻したり、花畑にして景観資源として活用するなどの取り組みを進めてみては。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
104	基本方向3	将来都市像1にある、新たな文化を創造・発信するという視点も大事だと思うが、歴史・文化ゾーンの回遊性を高めていく中で、何を目的としてその地を「歩く」という目線が重要だ。 岡山市には数々の歴史・文化的財産があるが、場所が点在しており、交通機関の整備が行き届いていない。さらに、岡山城二ノ丸東門(下水手門)跡のように、崩れても放置されている場所があったり、岡山城周辺の住宅のように景観条例を無視した外観色の建物があつたりと、既存財産の価値を維持する取組がなされていない。他県から来られた方々ががっかりしないよう既存の歴史文化遺産・財産を掘り起こし、整理し、またメンテナンスすることもしっかりと盛り込んでほしい。 また、市街地の景観等を考えていく中で、地域ごとに特徴を生かした整備がなされるよう、ある程度は統一した景観にしていくべき。	歴史・文化資産の保存活用や美しく風格ある景観づくりなどは、まちづくりを進める上で重要であると考えており、ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
105	基本方向3	<歴史、文化、伝統の保存から活用へ> 絶えていく伝統技術の保存と価値の再認識が必要。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
106	基本方向3	<文化度の高い町 岡山へ> 経済優先の尺度からの脱皮、パラダイムシフト、芸術の素養のある人材育成が必要。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
107	基本方向3	歴史・文化に石井学区の坪田譲治なども入れて欲しい。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
108	基本方向4	若者・女性の潜在力や多様な視点をいかすためには、行政から若者・女性の意見を聞くためのワークショップなどの「場づくり」を行い、その結果を施策に反映していくボトムアップ型の意思決定を行う仕組みをつくるべき。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
109	基本方向4	女性活用について、子育て環境の充実だけで終わらず、就業サポートを手厚くしてほしい。女性に向いている職種がもっと増えるようにするなど、企業に働きかける努力もしてほしい。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
110	基本方向4	出産や子育てがしやすい政策の実施、短時間でも子どもを預かってもらえる公的機関の設置など、働く女性として、子育て環境の充実をお願いしたい。子育てしやすいことが人口増加に必ずつながっていく。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。また、具体的な施策については、中期計画でお示しすることとしています。
111	基本方向4	「女性が持つ潜在力や多様な視点を活かす」、「女性が輝く」というフレーズと視点はあがるが、男性が変わらないと「男性も女性も輝く」社会は来ない。男性と女性がともに家事にも子育てにも仕事にも地域にも参画することで、お互いに変わりあい、それぞれのよさを活かすことができる社会環境が整うと考えられるので、男女共同参画という視点を盛り込んでほしい。	基本方向4の「女性が輝くまちづくり」の考え方は、男女共同参画社会の視点を包含するもので、女性の力が最大限に発揮されることで、女性も男性も暮らしやすい社会の実現につながると考えているところですが、よりわかりやすい表現にするため、基本方向4の中に、「男女共同参画社会の推進」の文言を追加します。
112	基本方向5	中学校までの連続性の視点と、その先を見通す力をつける教育が大切。また、大学で過ごした土地に住み続ける人も多いので、恵まれた大学教育など、岡山の教育環境をもっと市民が意識する、また、県外にもアピールすべき。	大学の多さなどの恵まれた教育環境は、岡山市の強みと特性として認識しているところであり、ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
113	基本方向5	合併により岡山市に統合したものの、地域の盛り上がりや活性は滞り、何も変わらない。UIJターン化を含め、支所が主体となる地域創生に対して、教育が役割を果たす方向性がほしい。	周辺地域の活性化は重要と考えており、ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
114	基本方向5	基本方向5について、生涯学習への記述があるのは市民活動が盛んな岡山ならではの素晴らしいことだと思う。	岡山市の強みと特性である、活発な地域活動の蓄積もいかながら、中期計画では、生涯にわたる豊かな学びを支援する施策を検討していきたいと考えています。
115	基本方向5	「自立する子ども」という点について、困難に直面してもたくましく社会を生き抜く力というのは、教育や生活を「個人」の営みだと思わせてしまう。「たくましく」とは何なのか。今の子どもは「たくましく」生きていないのか。ESDに取り組む岡山市の現状や日本の社会の現状を踏まえると、「共生」や「共助」という言葉を用いて、困難な社会の中で、他者と協力しながら、他者に配慮しながら生きる子どもを育成することを目的とすべきではないか。	将来都市像2では、他者や社会とのつながりを重視して、自ら考え、学び、行動する、未来を拓く人材が育つ都市を掲げ、「共生」「共助」といった趣旨も含めて、基本方向5で自立する子どもの育成を記載しています。
116	基本方向5	教育へのITの導入について、検証・検討はいいが、ITにおどらされて本当に子どもの成長に活かしているのか。昔の教育県と言われた岡山にITは無かった。よき時代の良い点、不十分だった点を冷静に振り返るべき。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。また、具体的な施策については、中期計画でお示しすることとしています。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
117	基本方向5	<p>自立する子どもを育てる学校での教育・学びを地域社会がサポートしていく地域協働学校などの仕組みづくりを続けていくとともに、ESDの視点等をふまえて地域社会や国際社会における課題と学習・学びの内容を関連付け、より実践的で課題解決型の力を身に付けていくことが必要。</p> <p>学校教育・生涯学習における学びや取組の内容と国際的な枠組みとの関連性を認識しておくことで、都市としての国際競争力を上げることができると思う。</p>	<p>ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。</p>
118	基本方向5	<p>学校教育における子どもたちの学習・学びの支援のためには、子どもたちを支える教職員や事務職員の職場環境を整え、子どもの教育に集中できるような環境づくりを、待遇の改善を含めて検討していくべき。より質の高い教育者が教育に従事できるようにする仕組み・仕掛けを検討し、手を打っていく必要があることを基本計画・実施計画等で明記しておくべき。</p>	<p>質の高い教職員の育成や教育環境の充実は重要なことであると考えており、中期計画を策定する中で検討していきたいと考えています。</p>
119	基本方向5	<p>「子どもが将来に夢と希望を持って・・・未来を拓く人材が育つ都市」を実現するためには、一人ひとりを大事にした教育を行えるきめ細かい指導体制の確立が重要であり、設備の充実や教職員の確保が大切。</p>	

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
120	基本方向5	市立の小・中学校の学校図書館には学校司書が常駐し、知りたいことをどこまでも調べる・学ぶことができるようサポートしているため、岡山市の子どもは、読書冊数や読書好きという数値が高い。子どもたちには、情報活用能力が求められるインターネット社会において、さらなる情報リテラシーを育成することが求められており、多様な情報を入手し、読み、判断する力を育てる学校図書館について、さらにその働きが発展できるような施策が必要ではないか。	読書活動は、豊かな学びの一つであり、学校図書館や市立図書館は、豊かな学びに欠かせない施設であると認識しています。 また、情報リテラシーは、現代社会を生きる上では重要であり、学校教育等においても引き続き取り組んでいく必要があると考えています。 こうしたことも踏まえつつ、具体的な施策については、中期計画を策定する中で検討していきたいと考えています。
121	基本方向5	岡山特性を生かした魅力ある都市づくり、そして市民一人ひとりが夢や希望を実現し輝ける都市の実現には、大きく期待し、賛同する。中でも、岡山の未来、日本の将来を見据えた、子どもの育つ環境の整備には、地域経済の成長同様、ぜひ心を砕いていただきたい。 「読書」は、子どもの学びと育ちはもちろん、市民の生涯にわたる豊かな学びにも欠かせない。基本方向の内容のほとんどに、公共図書館や学校図書館、読書が関わってくる。一校一名の学校司書が配置された学校図書館や、高いサービスを提供する公共図書館は、岡山固有の強みであり、全国に誇れる岡山らしさであるため、基本方向に、公共図書館、学校図書館、読書の文言を入れて、読書環境の充実や図書館の活性化を加えてほしい。	
122	基本方向5	「岡山市らしさ」を大切に、目先の利益を考えるのではなく、真に市民のための長期構想に仕上げたい。市民一人ひとりが学び親しむことにより、様々な交流を通じて新たな文化を創造し、岡山市らしさを市民が誇りを持って国内外に積極的に発信する都市をめざすためにも、学びの源であり、文化の保存継承の役割がある、公共図書館・学校図書館の充実、整備を進めてほしい。	
123	基本方向5	学びと育ちを支え、市民の生涯にわたる豊かな学びを支援し、未来を拓く力と豊かに生きる力を育むまちづくりのためには、公共図書館と学校図書館の充実は欠かせない。	
124	基本方向5	確かな学力、豊かな人間性のためには、公共図書館や学校図書館の働きは欠かせないため、その充実を盛り込んでほしい。	
125	基本方向5	文章の1段落目に「学校図書館での学びや読書活動を通じて」というような文章を盛り込んでほしい。 文章の2段落目に「市立図書館でのサービスの充実をほかり」というような文章を盛り込んでほしい。	
126	基本方向5	市内の小中学校では冷暖房を完備していないが、他都市では完備しているところもある。これでは憲法が保障する「教育の平等」が守られない。これは、市の責任ではなく、文科省の責任であり、市は学校の設置基準及び補助基準の変更を要請すべき。	子どもが快適に安心して学ぶことができるように、どのような方法が考えられるかも検討しながら、適切な教育環境の整備を進めていきたいと考えています。
127	基本方向5	学びと育ちの連続性を担保するためには、公民館に、絵本の部屋や、小・中・高校生のための語学学習機材等が設置された勉強室が必要。大都市では勉強室の存在は一般的である。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
128	基本方向6	将来都市像は、わくわくする構想だが、動き出すためには行政だけでなく市民誰もがその輪の中に自分が入っているのだと感じる環境づくりが真っ先に行なわれるべきであり、そのためには、産官学金その他すべての団体や組織が同じ目線で将来都市像が見れるしくみが必要。	都市づくりの基本目標では、都市づくりの目標の実現に向けて市民と行政とが協働で取り組んでいくことを記載しています。また、基本方向6では、多様な主体がパートナーシップを深め、それぞれの特性や力を発揮し、役割分担を明確にし、幅広い課題の解決に向けて実践していくことを記載しており、ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
129	基本方向6	人口減少・高齢化で少なくなる税金を有効に活用するためには、市民がもっと知恵も思いも力もネットワークも出して税金の再配分に関わるべき時代であり、これまでの「ただで使えるボランティア」「好きなこと言いつばなしの無責任」「行政の下請け」などというあり方を変え、市民がもっと関われるしくみをつくっていくべき。	
130	基本方向6	市民の誇りは、自分が暮らすエリアの未来を自分たちで変えていけるんだという実感をなくして生まれにくい。中心市街地にとどまらず、細分化されたあらゆるエリアの個性ある構想を、市民参加を前提として築いていくべき。	
131	基本方向6	新しいことを初めて実行推進する力は、おそらく大抵の経営者には備わっているため、もっと民間、特に経営者にアイデアを求めてもらいたい。	
132	基本方向6	構想の中には是非民間の力の活用も盛り込んで欲しい。	
133	基本方向6	「協働」という言葉を書いていないのは問題だ。	
134	基本方向6	「多文化共生」が述べられているように、これまでの基本構想の先を行く部分についてプラスの評価をしている。	基本方向6では、多様な主体がパートナーシップを深め、それぞれの特性や力を発揮し、役割分担を明確にし、幅広い課題の解決に向けて実践していくことを記載しており、協働のあり方そのものを表現しています。
135	基本方向6	「行政、地域住民、NPO、企業や、知の拠点である大学等の多様な主体がパートナーシップを深め」などと書いているが、2015年12月に成立した「岡山市協働のまちづくり条例」では、「多様な主体」は「住民自治組織、NPO法人、事業者、学校等地域の社会課題解決に関する取組を行う全ての個人及び団体並びに市」ということになっているだけに、整合するようになるとともに、大学を強調するのではなく、学校と書くべき。	大学が多いことは岡山市の強みであり、「知の拠点である大学等の多様な主体」と表現していますが、多様な主体の中には大学以外の学校も含めて考えています。
136	基本方向6	「地域全体で支え合う」の精神とは、社会的弱者に対しての言葉ではなく、地域社会を構成するすべての人が、自主的・主体的に自立し、能動的に支え合う精神と実践こそが大切である。 そのためには、市民が多様にそれぞれに自発的に動き出す「しくみ」と「意識づけ」、地域の意識改革を促進する活動が必要であり、そうすることで都市づくりの基本目標が「市民自体的もの」になる。	基本方向6では、多様な主体がパートナーシップを深め、それぞれの特性や力を発揮し、役割分担を明確にし、幅広い課題の解決に向けて実践していくことを記載しており、市民が自発的に動き出す仕組みづくりや意識改革を進めることは重要であると考えています。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
137	基本方向7	少子高齢化が進む中、「住み慣れた地域で安心して暮らせる健康・福祉のまちづくり」というのは重要なテーマだと思う。住み慣れた地域で暮らし続けること、生活の足としての交通ネットワークがあることは不可分の関係だと思う。そのため、基本方向7の中にも、基本方向2で記載された交通の内容を記載すればよいのではないかな。	基本方向2では交通について、基本方向7では福祉について基本的な方向性を記載していますが、施策の実施にあたっては、その連携にも配慮する必要があると考えています。
138	基本方向7	健康寿命が短い根本的理由をいくつか挙げて、その理由ごとに対処して欲しい。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
139	基本方向7	岡山市は、要介護者への支援に偏り過ぎており、一般高齢者に対する生活支援が少ないため、次のことを要望したい。 ①どんな地域に住んでいても配食サービスが受けられること ②24時間介護(1日短時間で複数回の訪問介護)の実施 ③安価で戸口から戸口までの乗合タクシー 施設入所より在宅の期間が長くなれば福祉の経費も節約できる。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
140	基本方向8	長期構想のめざす姿は、非常に美しくも豊かな都市づくりである。「インフラ整備」は、都市の機能を十分に発揮し、まちの魅力を実感する大きな要因の一つであり、インフラ整備を計画的に実施し、併せてインフラに出来るだけたくさん付加価値を付けることが、岡山市の魅力を内外に発信することにつながる。	インフラは、都市の機能を発揮し、まちの魅力を実感する大きな要素の一つであり、計画的・効率的な整備とマネジメントを行うことで、「住みやすさ」をはじめとした岡山市の魅力の向上にもつなげていきたいと考えています。
141	基本方向8	将来都市像3の「都市基盤の計画的な整備と更新」や、基本方向8の「高度経済成長期に集中的に整備され、老朽化が懸念される都市インフラの効果的・効率的なマネジメント」が、公共施設等のマネジメントの内容として記載されているが、「都市インフラの効果的・効率的なマネジメント」は文言として曖昧に過ぎ、具体性に欠け、不十分であり、効果的・効率的なマネジメントの中身として、税金を無駄にしない方法を探ることを表現すべきだと思う。	施設の複合化や統廃合等の再配置や最適化、計画的な長寿命化等を進めるなど、公共施設の大規模改修や更新についても基本方向10に記載した都市経営の視点を大切にして進めていきたいと考えています。
142	基本方向8	インフラの予防保全は、市民生活の安全上重要であるが、予防保全には莫大な額が必要となり、限られた税収の中から莫大な金額を拠出し事業を行うのだから、限られた税収を効率的に使うことや、事業の要・不要について地域住民の意見を重視すること等を簡潔に文言上記載すべき。	
143	基本方向8	インフラの予防保全等には特に費用が掛かることを踏まえて、基本方向8の中にも基本方向10と同じく効率的な財政運営の表現を付け加えたらよいのではないかな。	
144	基本方向8	インフラ施設の新設等は、都市機能やイメージに大きな変化をもたらす効果のある事柄であるので、実施内容は構想の内容に反しないことが重要である。そのため、「都市の魅力を創造・発信し、活力と躍動感あふれる都市づくりに資する整備と更新」というように、内容を加えたらよいのではないかな。	都市インフラには、それぞれの目的、機能があり、それが十分に発揮されることにより、活力と躍動感のある都市づくりが下支えされているものと考えています。
145	基本方向8	安全・安心であることのアピールは、市外・県外の人にはとても魅力的に見えると思う。	自然災害の少ない安全・安心な都市として全国的に認知されているところであり、引き続き、安全・安心なまちづくりに向けた取組を進めていきたいと考えています。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
146	基本方向8	用水路へ転落する事故が頻発しており、対応策が必要である。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
147	基本方向9	「市民、事業者等との協働により再生可能エネルギーの導入、省エネルギーを進めるとともに、市民生活や都市活動を環境にやさしいスタイルに変革していきます」とあるが、二酸化炭素の排出量が多いのは産業や運輸部門などであるため、「市民生活や都市活動」の前に、「企業活動」を書き入れるべき。	産業や運輸部門の企業活動も含め「都市活動」と記載しています。
148	基本方向9	ESDに代表される活動を中心に、持続可能な社会のモデル都市となる岡山らしさを定着させるため「環境調和・自立循環型の市」を先進して目指してほしい。学ぶべき暮らしは、兼業農家が生きてきたライフスタイル、そして売電用でない自家用の太陽光エネルギーの活用促進だと思う。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
149	基本方向10	「都市の持続的発展を支えるため、財政運営の健全性の確保、簡素で効率的な行政運営に向けた市役所の自己変革」の記載について、限られた税金を財源として財政運営を行っていることを踏まえ、費用対効果を重視するなど、税金を大切に使う姿勢を文言として記載していただきたい。	基本方向10の「財政運営の健全性の確保、簡素で効率的な行政運営に向けた市役所の自己変革、官民の役割分担の見直し等」には、税金を大切に使うべきという、いただいたご意見の趣旨を踏まえた考え方を記載しています。
150	基本方向10	持続的発展を考える上で、財政運営についての記載はなくてはならないものだと思う。	都市の持続的発展を支えるため、財政運営の健全性の確保、簡素で効率的な行政運営に向けた市役所の自己変革、官民の役割分担の見直し等の不断の行財政改革に取り組んでいきたいと考えています。
151	基本方向10	コンパクトシティのもとに、合併前の住民の意見を聞かず一方的に施設の集約や閉鎖を行うべきでない。一部の住民の意見を聞いただけで問題解決とするようなことはやめ、住民の意見を聴く機会を十分に設けるべき。	具体的な施設の集約や再配置を行う際には、住民の皆様のご意見を聞く必要があると考えています。

No	区分	意見の概要	意見に対する市の考え方
その他（意見項目数:6）			
152	その他	東岡山駅踏切の渋滞緩和のため、宍甘のT字路を十字路にし、JR線路の下を潜り土田北まで幅の広い道路を通し、瀬戸町、山陽団地方面へつなぐ路線を整備してほしい。	現在、外環状線の一部として、ご指摘のようなJR路線の下を通る道路整備に着手しているところです。
153	その他	北長瀬駅前の再開発が長期構想と連携することを希望するとともに、この再開発を本当の意味において「市民参加型」プロジェクトとするため、臨時市民団体を立ち上げることも必要ではないか。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
154	その他	公教育における部活は、放課後のみならず土日祝も行われており、交通費・弁当代の負担が生じている。部活による教職員並びに低所得世帯の負担は小さくないはずであり、公教育の部活は体操着で行える短時間かつ勤務時間内で終了するものとし、それ以上は個人の意思で個別のチーム等に所属して行えば良いのではないか。	部活動の活動時間などのあり方については、個々の学校において保護者の意見を聞きながら決定しています。また、部活動へ外部の指導者を派遣する事業を通じて、顧問教員の負担軽減を図っているところです。
155	その他	富吉地区火葬場予定地は、岡山の躍動感ある魅力・特性を発信する場所として火葬場以外に使用すべき。 ①空港利用者の目に触れる場所に火葬場をつくることは、国際交流や県外との交流を積極的に掲げ、活力あふれる岡山をアピールするという目標に照らして相応しくない。 ②岡山は災害に強いことが強みだが、産廃跡地という軟弱な場所に火葬場を建て、災害により破損することがあれば、広く岡山のアピールポイントを失うことになる。 ③基本方向4に「安心して喜びを感じながら子どもを生み育てることができる」との項目があるが、当該土地から数百メートルの距離に馬屋上小学校があり、子どもが毎日「死」を連想する火葬場を目にするのは、子どもの繊細な心にとって良いことと思わない。 ④地域には学校が必要だが、就学前の子を持つ世帯は、小学校目前に火葬場が設置されることを不安に思い、地域に住み続けること自体を検討している。地域から若い世帯が離れ、高齢者のみが残されると、基本方向7で示されるような「地域全体での支え合い」の担い手が不在となり、コミュニティを維持することが困難になる。	ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
156	その他	パブコメの手続について、意見について「個別の回答はいたしません」と書いているが、記名の意見を求める以上、また素案の中にも「市民主体」と書いているだけに、請求があれば個別回答をするべき。	いただいたご意見については趣旨を要約した上ですべて掲載しており、ご意見に対する市の考え方については、同趣旨の意見をまとめた上で記載しているところです。
157	その他	素案の段階だけでなく、すべての段階で、市民の意見をもとめるパブリックコメントなどを行うべき。	長期構想の策定にあたっては、市民意識調査やまちづくりワークショップなど市民参加の取組を実施し、広く意見を伺った上で、有識者や団体の代表などで構成される基本政策審議会において議論を重ね、今回の素案を作成しているところです。